




図書館だより


令和4年6月号
葛城市立磐城小学校

第68回読書感想文課題図書のお知らせ


**つくしちゃんとおねえちゃん (低学年)**
わらな 泣いたり、けんかしたり、助けたり、助けられたり、揺れ動く姉妹の気持ちを、妹つくしちゃんの目線で書かれています。やさしく温かみのある絵がたくさんあります。


**ばあばにえがおをとどけてあげる (低学年)**
さいきんえがおが見えなくなったばあばを元気づけるため、主人公ファーンは、「ひとのこころをしあわせにして、めをかがやかせるものよ」とママに教わった「よろこび」を集めるに出かけます。絵がとてもカラフルできれいです。

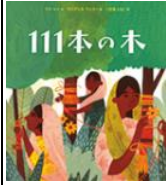
**すうがくでせかいをみるの (低学年)**
うちのかぞくには、みんなそれぞれすきなことがある。すきなことがあるっていいな。なにかみつかるかな？ いろいろやってみてピンときたのは……すうがく！ 世界をみる方法は、いくつもある――数学が大好きな主人公の、「すき」の気持ちがあふれるおはなし。


**おすしやさんにいらっしやい！：生きものが食べものになるまで (低学年)**
キンメダイ、アナゴ、イカなど、釣り上げた魚をさばき、だんだんと美味しくな切り身へとかわっていく様子を、動画のような連続性で見せる写真絵本。魚のとくちょう部位の名前


も解説。最後はお寿司になって登場！みんなで美味しくいただきます。


**みんなのたためいき図鑑 (中学年)**
授業参観にむけて、たのちんの班は「たためいき図鑑」をつくることになった。どんな時にヒトがたためいきをつくるのか調べて発表するんだ。でもいっしょの班の加世堂さんは、毎日保健室に登校していて、教室にはこられない。たのちんが、加世堂さんにも図鑑づくりに参加してほしいと思ひ、ある提案をしたところ、班のメンバーともめてしまい……もうたためいきばっかり！


**チョコレートタッチ (中学年)**
ジョンは、お菓子が大好きな男の子。ごはんやおかずは残して、お菓子ばかりたべています。なかでも、チョコレートには目がありません。ある日、ひろったコインで買ったチョコレートを食べたところ、不思議なことがおこりはじめました。


**111本の木 (中学年)**
男尊女卑と自然破壊が続いていたインドの小さな村で、女の子の誕生に111本の木を植えて祝うことを提案したスンドル村長のお話。村には豊かな自然が戻り、女の子に学ぶ機会を与え、児童婚から守るために行動した村長の実話。

**この世界からサイがいなくなってしまう-アフリカでサイを守る人た (中学年)**
あと二十年たつと、アフリカからサイがいなくなってしまうかもしれない…。角をねらった密猟によって、サイの数が減っているせいで。サイを守ろうとする人々と密猟者の知られざる戦いとは。実際に南アフリカで取材をおこなった著者が書く、本当の話。

**りんごの木を植えて (高学年)**
大好きな祖父にがんの再発がわかったが、祖父は「積極的な治療」は行わないという。『たとえ明日、世界が滅亡しようとも、今日わたしはりんごの木を植える』ということばを知っているか？ 祖父がみずほに語る。「明日世界がなくなるとわかってるのに、そんなむだなこと、なんですか？」とみずほ。どうしても理解できない。「人間が生きていくこととして「死ぬ」ということを考える物語。

**風の子送れよ (高学年)**
長野県南部、天竜川上流域を中心に伝わり、国の無形文化財にも指定されている「コト八日行事」。優斗たちが暮らす地区では、二日間にわたるコト八日行事のすべてが子どもたちの手にまかせられ、行われるのだ。コロナ禍で行事の開催自体があやぶまれる中、はたして優斗と仲間たちは、家々にすく疫病神を祓い、無事地区境まで送ることができるのか？

**ぼくの弱虫をなおすには (高学年)**
小学校4年のゲイブリエルには、こわいものがたくさんある。何よりこわいのは、5年生に進級すること。5年生になると、いやな上級生と同じ校舎になるから…。ぜったいに5年生にはならない、と決めた。親友の女の子フリータは、これに大反対！ゲイブリエルの弱虫をなおす作戦を考えて、夏休みのあいだ、その作戦に、ふたりで取り組むことになった。途中までは、うまくいっていた。ところが、ゲイブリエルのある思いつきのせいで、フリータの家族をまきこんでしまい…

**捨てないパン屋の挑戦：しあわせのレシピ (高学年)**
まきを燃やさないで作ることができない田村さんのパンには、何十年も生きてきた木の「いのち」も受け継がれている。大量のパンの廃棄に悩み、「一個も捨てない」ために奮闘するパシ職人を通じて、未来への知恵と希望が描かれています。

